

## 長期的に児童を伸ばす評価の考え方

本校では、児童の学習状況についてお話ししたり、お知らせしたりする機会が年間4回あります。教育相談週間（個人面談）に続き、第2回目である前期の通知表「あゆみ」を終業式の日の子供たちに渡します。通知表「あゆみ」の考え方、見方についてお知らせします。

### 1 基礎・基本となる学力の確実な定着を目指す評価

学習の評価とは、子供がもともと持っている力を測定するものではなく、指導したことで、子供がどれだけ基礎・基本の目標を身に付けられたかの実現状況を表しています。

テストの点数のみで、たとえば「〇〇点以上をA、△△点未満をC」と当てはめるわけにはいきません。学習の目標に対して、授業の中での理解度・発言・ノート・学習シート・学習カード・提出物・テストなど全てを鑑みて「おおむね満足」という到達ラインが必要になります。

この到達ラインを単元毎に設定し、学習を進める中で、評価しながら「おおむね満足」の状況を実現していない子がいれば、指導を行い、基礎・基本を定着させていく必要があるという考え方です。（指導の仕方は多様にあります。残り学習や夏の寺子屋、宿題もそのひとつです。）理想は、全員が目標に対して「おおむね満足」になることです。

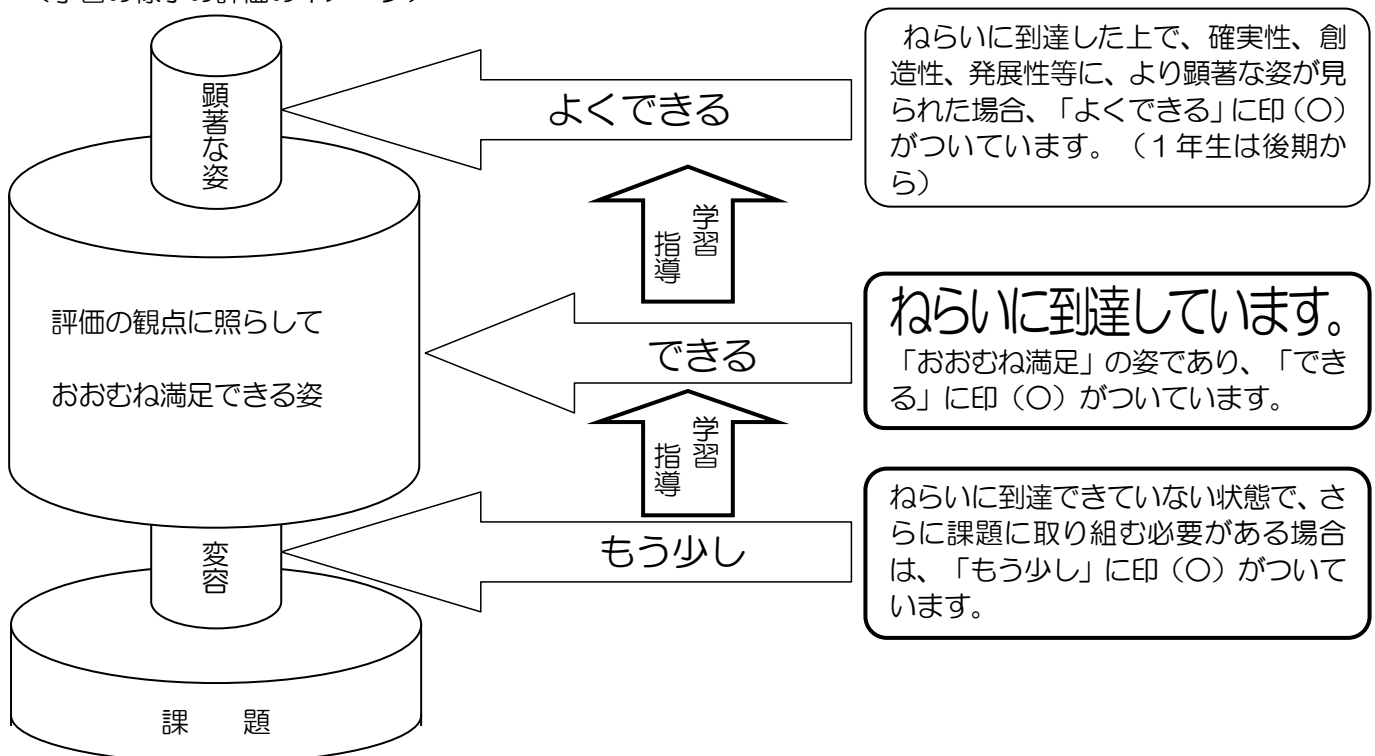
### 2 通知表「あゆみ」の見方

長い期間の「評価の観点」（めざす姿）の児童への定着を図るために、通知表による評価を前期末、後期末の2回行います。

教科の学習状況が、評価の観点に対して「おおむね満足」の姿が見られ、ねらいに到達している場合には、「できる」となります。ねらいに到達できていない状態で、さらに課題に取り組む必要がある場合は、「もう少し」となります。

尚、到達した上で、確実性、創造性、発展性等により顕著な姿が見られた場合は、「よくできる」となっています（1年生は後期から）。まずは「おおむね満足」に対する到達度を重視しています。

<学習の様子の評価のイメージ>



また、行動の記録は、各学年の発達段階に即した具体的な観点に対して、「できる」と「もう少し」として、各評価の欄に印（○）がついています。

### 3 通知表「あゆみ」の活用

通知表は、学校での学習や生活について、子供たちの成長や発達の様子を保護者にお知らせし、家庭と学校が協力して進められるようにすることをねらいとしています。学習指導要領をもとにしながら、さらに分かりやすい表現に努めました。子供たちのよさや、やる気を引き出すため、努力したことや進歩したこと、また課題となる今後の努力点も示しています。

通知表を活用しながら、ご家庭でも今後のめあてづくり等にお役立てください。その際は、学習の様子、生活の様子に加え、総合的な学習の時間、道徳科、外国語活動、特別活動の記録や出欠欄も重視してください。

本年度から、道徳科の学習状況についての評価欄を設けています。評価は記述で行い、認め、励ます方向で記載しています。中学年の外国語活動については、前後期のどちらかで所見欄に記載します。

さらに、学校から（所見）については、学習・生活・学校行事等、学校生活全体での様子や、その児童のよさ、その学期のがんばり等、学校生活を総合的に見て、担任が記述式で評価しますので、評定以上に担任からの生の言葉を大切にいただければと考えます。

通知表には「家庭から」の欄がありますので、保護者の方から見て、努力したこと、がんばったこと等をお子様向けにご記入ください。教育相談週間（個人面談）と同様に通知表を活用され、学校と家庭の双方から子供たちの支援ができるようにしていきたいと考えています。